

高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部  
SD推進委員会  
2024年度年間活動報告書

2025年3月31日

《SD推進委員》

委員長	加島 勝一
委員	東 英和
委員	金 弘錫
委員	滝井 元視
委員	伊勢亀 隆一
委員	板垣 哲平
委員	川又 彩夏
委員	清水 麻理子
委員	羽佐田 梨乃

# 内容

1. はじめに .....	- 2 -
2. 2024 年度 事業報告 .....	- 6 -
2.1. SD 推進委員会主催研修 .....	- 6 -
2.2. 学内合同研修会 .....	- 8 -
2.3. 学外合同研修会 .....	- 9 -
2.4. 部署内勉強会等 .....	- 10 -
2.5. その他 .....	- 11 -
3. 研修会アンケート集計 .....	- 12 -
3.1. アンケート報告 .....	- 12 -
3.2. 次年度 SD に向けたアンケート報告 .....	- 17 -
3.3. 集計結果全体に対するコメント .....	- 17 -
4. まとめと次年度計画 .....	- 18 -
4.1. まとめ .....	- 18 -
4.2. 次年度計画 .....	- 18 -

## 1. はじめに

高崎商科大学 SD 推進委員会（以下「本委員会」と言う）は、2015 年 4 月 1 日に施行された「高崎商科大学 スタッフ・ディベロップメント規程」に基づき組織されており、2024 年度の構成員は各部署より専任職員 6 名が選出されている。また 2017 年度より SD に関する法令が制定されたことに伴い、3 名の専任教員（商学部 教授 2 名、短大部 准教授 1 名）を構成員に加え、合計 9 名で活動を行っている。

同規程では、スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」と言う）を「専任教育職員・事務職員を対象とした管理運営や教育・研究およびその支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組み」と定義しており、今年度も以下の 3 項目について計画的、継続的に企画・運営している。

- (1) 個人の能力向上に資する事項の実施
- (2) 学内組織の業務改善、組織間の連携強化、知識共有に資する事項の実施
- (3) 教職協働を図る教育・研究およびその支援に資する事項の実施

各回の委員会の開催時期と検討内容は以下の通りである。

### 第 1 回

2024 年 4 月 22 日開催

内容

- (1) 2023 年度自己点検報告書並びに 2024 年度委員会年間方針について  
2023 年度 SD 推進委員会の成果と、2024 年度 SD 推進委員会の年間方針を共有した。
- (2) 2024 年度の主な活動について  
2023 年度 SD 推進委員会で検討した次年度計画をもとに、今年度の SD 研修会について検討を行った。  
研修会の具体的な検討には、昨年度のアンケート結果を最大限活用することが確認された。
- (3) 役割分担  
2024 年度 SD 推進委員会における役割を決定した。

### 第 2 回

2024 年 5 月 13 日開催

内容

- (1) 2024 年度 SD 研修会アンケート質問項目の確認について  
今年度の研修会後のアンケート共通項目について検討を行った。  
アンケートの内容については研修会后、参加者に共有することとなった。
- (2) 2024 年度 SD 研修会実施に向けての進捗について  
研修会運営に係るマニュアルを確定した。  
ビズアップ総研の e-JINZAI を活用した e-ラーニングの今年度実施について検討した。
- (3) その他  
第 1 回 SD 推進委員会で検討した研修会テーマについて、実施の方向性を検討した。

### 第3回

2024年7月1日開催

内容

- (1) 2024年度SD研修会実施に向けての進捗について  
今年度の研修会として実施予定の以下のテーマについて情報共有が行われた。
  - ① 高崎健康福祉大学・高崎商科大学合同SD研修会について（集合型研修）
  - ② 障害平等に関する研修
  - ③ PCスキルアップ研修（e-ラーニング）
  - ④ 能力向上のためのセルフケア
- (2) SD研修会アンケート結果の教職員共有項目について  
第1回SD研修会の参加者アンケートについて検討し、全教職員に共有を行うこととなった。
- (3) その他  
文教大学視察（私学経営研究会主催）の報告が行われた。  
予定していなかったSD研修会を9月に追加することが確定した。

### 第4回

2024年8月7日開催

内容

- (1) 「能力向上のためのセルフケア」に関する研修の実施について  
研修会実施に向けた進捗が共有された。
- (2) 高崎健康福祉大学 合同SD研修会について  
高崎健康福祉大学との合同SD研修会に向けて、進行表をもとに最終的な準備段階に入っていることが共有された。
- (3) その他  
実施が確定している「障害平等についての研修」の準備状況が共有された。  
e-ラーニングの受講後アンケートの参加者アンケートが共有された。

### 第5回

2024年10月15日開催

内容

- (1) 実施済みSD研修会の報告について  
これまで開催された以下のSD研修会について、実施報告と参加者アンケート結果等が共有された。
  - ・ 高崎健康福祉大学との合同SD研修会
  - ・ FD・SD合同研修会 財務諸表の見方と本学の状況
  - ・ 本田勝浩の生き方～大学職員としての半生
  - ・ OAスキルアップ研修（e-ラーニング）
- (2) 現在進行中のSD研修会の状況報告について  
今後予定されている以下のSD研修会の進捗状況が共有された。
  - ・ 障害平等への理解を深める～支援を要する相手への対応に対する困り感解消に向けて～
  - ・ 教職員のメンタルヘルスにおけるラインケアの重要性
  - ・ 私学経営研究会 中堅職員の役割と能力開発
- (3) その他  
次年度予算について各委員に依頼が行われた。

## 第6回

2024年12月24日開催

### 内容

- (1) 実施済み SD 研修会の報告について  
「障害平等への理解を深める～支援を要する相手への対応に対する困り感解消に向けて～」において参加者アンケート結果の共有がなされた。また、本研修会を踏まえて研修会進行表再作成案が提案され、修正を反映したものを今後参考として使用することとなった。
- (2) 現在進行中の SD 研修会の状況報告について  
以下 SD 研修会の状況が共有された。
  - ・ 「教職員のメンタルヘルスにおけるラインケアの重要性（案）」
  - ・ 私学経営研究会「高大接続改革と探求型授業の重要性」の検討
- (3) その他
  - ・ SD 研修会における開催マニュアル・進行表の改訂について提案が行われた。
  - ・ 日本能率協会の研修会において次年度の計画が共有された。
  - ・ 次年度予算について報告がされた。
  - ・ 活動報告書の作成について今後の流れ等が共有された。

## 第7回

2025年1月21日開催

### 内容

- (1) SD 全般に関するアンケート調査票確認
  - ・ 報告書作成スケジュールについて、活動報告書作成チームが提出したスケジュール案の審議が行われ、結果提案案にて作成を進めることとなった。
  - ・ SD 全般に関するアンケート調査票について、活動報告書作成チームよりアンケート項目が示され、審議の結果、示した項目にて進めることとなった。
- (2) 報告書に掲載する「次年度計画」の素案検討
  - ・ 次年度計画の方向性に関する提案がなされ、委員会内で意見共有を行った。各委員は次回委員会までに研修会の提案を1つ提出することとなった。
  - ・ 他大学との合同研修会開催計画について、連携協定を締結している大学との研修会は継続を検討したいこと、また今後他大学との合同 SD 研修会の可能性があることの共有がなされた。
- (3) その他
  - ・ 活動報告書作成チームより、各部署勉強会の勉強会の定義について提案がなされ、次年度以降の検討課題とすることとなった。

## 第8回

2025年2月20日開催

### 内容

- (1) SD 全般に関するアンケート結果等を踏まえ、報告書に掲載する「次年度計画」の最終検討  
今年度の SD 推進委員会活動報告書の作成にむけ、次年度研修会の検討を行った。
- (2) 高大接続改革と探究型授業の重要性（私学経営研究会セミナー）  
「高大接続改革と探究型授業の重要性」の事後アンケートの共有がされた。
- (3) その他  
なし

## 第9回

2025年3月25日開催

内容

- (1) 2024年度活動報告書について  
2024年度SD活動報告書の作成進捗状況が共有された。
- (2) 2025年度への送り事項について  
他大学との合同SD研修会について情報が共有された。
- (3) その他  
なし

2024年度に実施した学内SD研修等の詳細については「2. 2024年度 事業報告」にて紹介する。また研修会開催終了毎に実施したアンケート調査の集計結果については「3. 研修会アンケート集計」にて紹介する。さらに、今年度は、SD研修会実施に伴う研修会開催マニュアルならび Zoom マニュアルの整備にも取り組んだ。これらのマニュアルは次年度以降のSD研修会でも活用する。

## 2. 2024 年度 事業報告

2024 年度は SD 推進委員会主催研修会として、年間を通して 3 回の集合型研修、1 種類の e-ラーニングによる研修の実施の他、SD 推進委員会が対象者を指定して私学経営研究会が主催する研修会を受講した。

本項に記載する研修は教育職員・事務職員を対象とした SD 研修会の他に、他委員会との合同研修会や高崎健康福祉大学との合同研修会についても記している。また、2.4 以降では本委員会による企画とは別に、部署やチームによる独自研修会についても報告する。

なお、以下のテーマについては SD 推進委員会で検討したものの実施には至らなかった。一部適切な委員会や部署に開催検討の依頼を行っている。

- 生成 AI の活用について (SD 推進委員会から FD 推進委員会に実施依頼を文書で提出した。その後、FD 研修会として開催)
- ラインケアについて (SD 推進委員会から法人本部に実施依頼を文書で提出した。実施について検討中)
- サイボウズの活用について (SD 推進委員会で検討したが、教職員で利用できる権限が異なるため開催を見送った)

以下、開催報告に記載する受講者人数については、専任教員・大学専任事務職員を対象としている。このほか、特任教員や法人職員、附属高校教職員が参加している際には注釈で記載する。

### 2.1. SD 推進委員会主催研修

#### ① 風雲急を告げる私大受験の世界

実施日： 2024 年 5 月 22 日 (水) 15:30~16:50

参加者数： 受講者数 45 名 (対象者数：68 名 受講者率 66.2%)<sup>i</sup>

内訳： 高崎商科大学教員…20 名、高崎商科大学短期大学部教員…5 名  
高崎商科大学職員…20 名

講師： 大学イノベーション研究所 所長・山内太地氏

内容： 社会状況の変化に伴い、大学進学を取り巻く環境は学生の保護者の時代とは大きく様変わりしている。「大学入試は情報戦」ともいわれる昨今、最新の大学事情を知ることを目的とし、私立大学の年内入試制度の変化や、それに伴う受験状況の変化などを解説いただいた。

#### ② 本田勝浩という生き方～大学職員としての半生～

実施日： 2024 年 9 月 12 日 (木) 15:00~16:20

参加者数： 受講者数 29 名 (対象者数：69 名 受講者率 42.0%)<sup>ii</sup>

内訳： 高崎商科大学教員…2 名、高崎商科大学職員…27 名

講師： 文教大学学園常務理事・法人事務局長 本田勝浩氏

内容： 大学が直面する様々な課題やトレンドに対応するためには、柔軟かつ戦略的な対応が求められる。大学職員も、これらの実状を理解し、適切な対策を講じることが必要である。今回、自分のキャリアを見つめ直し、成長の糧とし、今後の業務に役立てることを目的とした。



### ③ 障害平等への理解を深める～支援を要する相手への対応に対する困り感解消に向けて～

実施日： 2024年11月13日（水）16:00～17:00

参加者数： 受講者数：49名（対象者69名 受講者率71.0%） iii

内訳： 高崎商科大学教員…17名、高崎商科大学短期大学部教員…8名  
高崎商科大学職員…24名

講師： ウェルビー株式会社 福祉サービス事業部 スーパーバイザー 西村妙子 氏  
ウェルビー株式会社 高崎駅前第2センター センター長 児玉絵利加氏

内容： 障害者差別解消法の改定に伴い、合理的配慮の提供が義務化された。障害の有無にかかわらず、その人らしさを認め合う共生社会実現に向け、教職員の障害平等への理解や障害者を取り巻く社会に対する意識を高め、適切な対応方法についての共通理解を図ることを目的とした。



### ④ OAスキル

2022年度からオンラインを活用した研修の機会を提供している。今年度も昨年度同様、全員必須研修としてOAスキル研修のうち、自身が選んだいずれかの講義を業務時間内に受講し、受講レポートを所属長とSD推進委員会委員長に提出するよう定めた。なお、レポートの項目については下記の通りである。

e-ラーニング受講後のレポートの項目（一部）

- どのようなことを期待してこの研修を受講しましたか？
- 研修を受けてどのような気づきや発見がありましたか？
- 研修で学んだ内容の中で、自身の業務にとって最も重要だと思ったことは何ですか？

実施日： 5月～7月の間に各自で受講日を定める

参加者数： 受講者数：32名（対象者34名 受講者割合94.1%） iv

内容： 昨年度のアンケートで希望が寄せられた「パソコンに対する知識・技術の修得」を目的とした研修を実施し、ビジネスパーソンに必須であるOAスキル（word、Excel、PowerPoint等）を学ぶことで、業務の効率化及び勤務時間削減を図る。今回は個人のスキルにあわせて入門編・一般編・応用編のいずれかを個人が選択し、研修に取り組んだ。

レポート： 

- 業務上、普段Excelを様々な場面で使用しますが、応用レベルまでのスキルがあるとかなり仕事が早くなると思いました。特に調査やアンケートでは集計作業が必要になる場面が多数あります。Excelの知識は、新しいことをやってみないと増えていかないので、日々勉強していくことが大事だと思いました。
- 数式やオートフィル、SUMなど関数を使っておこなう作業が多いので、できるだけ効率よく業務するのであれば学ぶだけでなく、業務内でも実践して自分のものにしていくことが重要だと思った。また、まだ、学んだことの無い数式や関数もあると思うので、入門編だけを実践するのではなく、さらに上級の内容も学ぶことが重要だと感じた。
- 普段、何となく使っていた校閲機能や差し込み機能について正しい使い方や応用方法を学ぶことができた。



## ⑤ 私学経営研究会研修会（視察）

テーマ： 文教大学見学会

実施日： 2024年6月14日（金）12：45～16：00

対象者： 施設管理担当者

講師： 文教大学法人事務局 本田勝浩氏

内容： 文教大学湘南キャンパスにて、新校舎見学会・施設概要説明会が実施された。新校舎設立に伴い、近隣環境に配慮した設計コンセプトの考案や設立後の修繕費等を考慮した什器の選定などの共有がなされた。

## ⑥ 私学経営研究会オンラインセミナー

テーマ： 中堅職員の役割と能力開発

実施日： 2024年9月26日（水）13：30～16：30

対象者： 役職がなく社会人経験4年程度の職員のうち、大学並びに附属高校職員から対象者をSD推進委員会で選定した（大学並びに附属高校の職員計3名が参加した）。

講師： 京都外国語大学 共通教育機構 准教授/学術研究支援部長  
山崎 その氏

内容： 『私学を取り巻く環境の変化』『中堅職員への期待と役割』『中堅職員に求められるスキル』をテーマにオンラインセミナーを開催。私学経営の状況や組織における自身の役割、多様な働き方についてグループディスカッションを交えた情報交換や悩みの共有等がなされた。

## ⑦ 私学経営研究会オンラインセミナー

テーマ： 高校・大学における探究学習の実践と高大接続の展望

実施日： 2025年1月30日（木）13：30～15：00（オンラインセミナー）、15：00～15：30（学内グループディスカッション）

対象者： 探究や高大連携事業を担当及び関心を持っている教職員（教員3名、職員9名）

講師： 共愛学園前橋国際大学 准教授 児浦良裕氏

内容： 児浦氏によるオンラインセミナー受講後、本学が独自に参加教職員にてセミナー内容や探究学習、高大接続等についてグループディスカッションを行った。

## 2.2. 学内合同研修会

### ① FD・SD 合同研修会

テーマ： 財務諸表の見方、本学の状況等について

実施日： 2024年9月4日（水）13：00～14：00

参加者数： 受講者数 69名（対象者数：69名 受講者率 100%） vi

内訳： 高崎商科大学教員...29名、高崎商科大学短期大学部教員...8名  
高崎商科大学職員...32名

講師： 高崎商科大学 経営企画課 田村真吾主任  
高崎商科大学 総務課 内山淳課長補佐

内容： 本学の経営状況を把握し、教職員としての経営的視点を身に付ける機会とし、会計業務担当者より2023年度の経営状況について解説を行った。

### ② 教職課程

テーマ： ここ20年の教職課程を考えるー「学び」の支援という窓からー

実施日： 2024年6月18日（火）

参加者数： 受講者数 8名

内訳： 高崎商科大学教員...5名、高崎商科大学職員...3名

講師： 高崎商科大学 教職科目担当教員（専任） 菅原亮芳氏

内容： 二部構成で実施。第I部では本学教職科目担当教員（専任）の授業見学を行い、第II部では授業研究会を実施した。

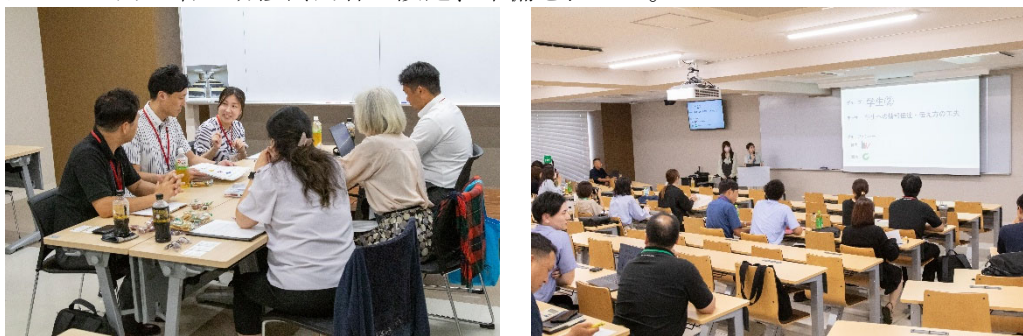
### ③ 教職課程

テーマ :	教育実習の報告内容を素材として教職支援・教職指導を考える
実施日 :	2025年1月14日(火)
参加者数 :	受講者数 13名 内訳 : 高崎商科大学教員...9名、高崎商科大学職員...4名
内容 :	二部構成で実施。第Ⅰ部では「2024年度教育実習報告会」、第Ⅱ部では教職支援・教職指導について検討を行った。

## 2.3.学外合同研修会

### ① 高崎健康福祉大学・高崎商科大学 合同 SD 研修会

実施日 :	2024年8月28日(水) 10:30~14:30
会場 :	高崎健康福祉大学
参加者数 :	研修会参加者数 44名 内訳 : 高崎商科大学職員...20名(うち研修会対象者 19名) 高崎健康福祉大学職員...24名(うち研修会対象者 19名)
背景 :	本学と高崎健康福祉大学のSD担当委員会は2022年から情報交換を行い、2023年には高崎市内の異領域分野の大学で協働し、教育・学術研究の質向上や地域貢献機能の強化を推進することなどを目的に大学間包括連携協定を締結した。活動の一環に教職員交流が含まれていることから、同年に初めて合同SD研修会を実施、今年2回目となる合同SD研修会を実施することとなった。
内容 :	今回の研修会の目的は、両大学職員の能力向上や大学業務の効率化・高度化とした。また、さらに意見交換による業務改善だけでなく、発表まで行うことで、情報集約能力・他者に伝える能力の向上を目指すこととした。事前に情報交換を行いたいことをアンケート調査し、その結果をもとにグループを設定。グループは2つのテーマについて意見・情報交換を行い、最終的に発表を行った。 研修会のテーマは以下の2つとした。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ テーマ1 ステークホルダーへの対応における悩み・課題等の共通点を探る ~大学・部署を超えて悩み・課題を共有し、価値観を広げよう~</li><li>・ テーマ2 大学・部署間での共通点または違い・悩み・課題の発表</li></ul> なお、本合同研修会は、本学SD推進委員の内3名と高崎健康福祉大学SD研修チームの内3名が研修会内容の設定、準備を担った。



## 2.4. 部署内勉強会等

部署内勉強会の実施を推奨している。部署内勉強会等の企画・運営は各部署で判断を行い、外部機関によるオンラインセミナーや対面型研修についても積極的に活用している。以下、各部署等から共有された勉強会等一覧を紹介する。

実施日	内容	講師	部署・対象
2024/4/5	図書館システム・業務研修	高橋美樹子	図書館
2024/4/10	キャリアタス UC の使い方勉強会①	川又彩夏	キャリアサポート課
2024/4/15	情報館初級研修	株式会社ブレインテック	図書館
2024/6/13	地方小規模大学の事例で確認 ステップで考える広報活動の整理整頓	(株) エデュース	広報・入試課
2024/7/19	15分でわかる！入試・模試データに基づく入試広報方針の立て方	(株) 進研アド	広報・入試課
2024/7/19	奨学金制度に関する勉強会	宮崎 真結	学生課
2024/8/23	情報館ユーザーの集い (1)	東京純心女子中学・高等学校図書館	図書館
2024/9/1	学校法人会計の仕組みと実務～学校会計入門コース～	公認会計士 梶間栄一	総務課
2024/9/2	これからのキャリア支援・リクナビ新機能説明会	(株) リクルート	キャリアサポート課
2024/9/19	情報館ユーザーの集い (2)	國學院大學観光まちづくりライブラリー	図書館
2024/9/26	"選ばれる大学"とは何か？～「広告」より「教育」高校生を動かすブランド広報～	(株) 応用心理研究所	広報・入試課
2024/10/2	情報館ユーザーの集い (3)	高橋美樹子	図書館
2024/10/8	キャリアタス UC の使い方勉強会②	(株) キャリタス	キャリアサポート課
2024/10/18	プレスリリースセミナー	(株) メディア戦略	広報・入試課
2024/10/21・30	<教育の質保証実践セミナー> 「学修者本位の教育」に向けた教学マネジメントのしくみづくり	(株) 学びと成長しくみデザイン研究所	教務課
2024/11/6	学校簿記と学校法人会計基準と計算書類の取り扱い/外部資金の獲得	一般財団法人私学研修福祉会/日本私立学校振興・共済事業団	総務課
2024/11/14	GKB48 勉強会「いま知っておくべき“オープンバッジ”を学ぶ」	株式会社シンクアップ	学生課
2024/11/19	活動報告会兼協働型災害ボランティアセンター運営研修	群馬県社会福祉協議会	社会連携課 地域連携グループ
2024/11/27	Adobe Express の AI 活用	ドルトン東京学園 Media Arts	広報・入試課
2024/12/5	大学広報セミナー	大正大学、朝日大学	広報・入試課
2024/12/5	キャリア教育・就職支援ワークショップについての勉強会	日本学生支援機構	キャリアサポート課
2024/12/18	キャリアタス UC の使い方勉強会③ ※アプリ活用等	(株) キャリタス	キャリアサポート課
2024/12/20	高崎健康福祉大学との情報交換会	高崎健康福祉大学学生課	学生課
2024/12/24	「寄り道ブレイン」Vol.2「食べるネーミング会議」	(株) 宣伝会議	広報・入試課
2024/12/24	日経バリューサーチ初級研修	株式会社日経メディアマーケティング	図書館
2024/12/25	労働法教育に関する勉強会	厚生労働省 (動画視聴)	キャリアサポート課
2025/1/16	わかる・つながる！地域社会 DX セミナー	ボストンコンサルティンググループ	社会連携課 地域連携グループ

実施日	内容	講師	部署・対象
2025/1/30・31	地域力創造に関するオンライン施策説明会	総務省	社会連携課 地域連携グループ
2025/3/5	教職員向け ES 添削ポイント講座	(株) 学情	キャリアサポート課

## 2.5. その他

### ① 法人主催研修

下記の通り対象者を限定した法人主催のセミナーが開催された。

テーマ :	管理者研修
実施日 :	2024年12月23日(月)9:00~17:00
参加者数 :	参加者数5名 内訳 : 法人職員・高崎商科大学職員…5名 <sup>vii</sup>
講師 :	株式会社リスキル 村上政義 氏 学校法人高崎商科大学 森本圭祐本部長 (研修会趣旨説明・進行)
内容 :	管理職の役割と必要な能力を理解し、マネジメントに必要な基礎的知識や考え方を学ぶ内容である。

### ② 書籍要約サービス「flier (フライヤー)」利用

flier (フライヤー) とは、株式会社フライヤーが運営する良書との出会いを促進する時短読書サービスである。昨年度に引き続き、自己研鑽の機会提供として、flier の導入を行った。希望する教職員にのみアカウントの配付を行い、自身の興味関心に併せて利用した。法人職員・大学・短大教職員の内延べ26名が利用した。

### 3. 研修会アンケート集計

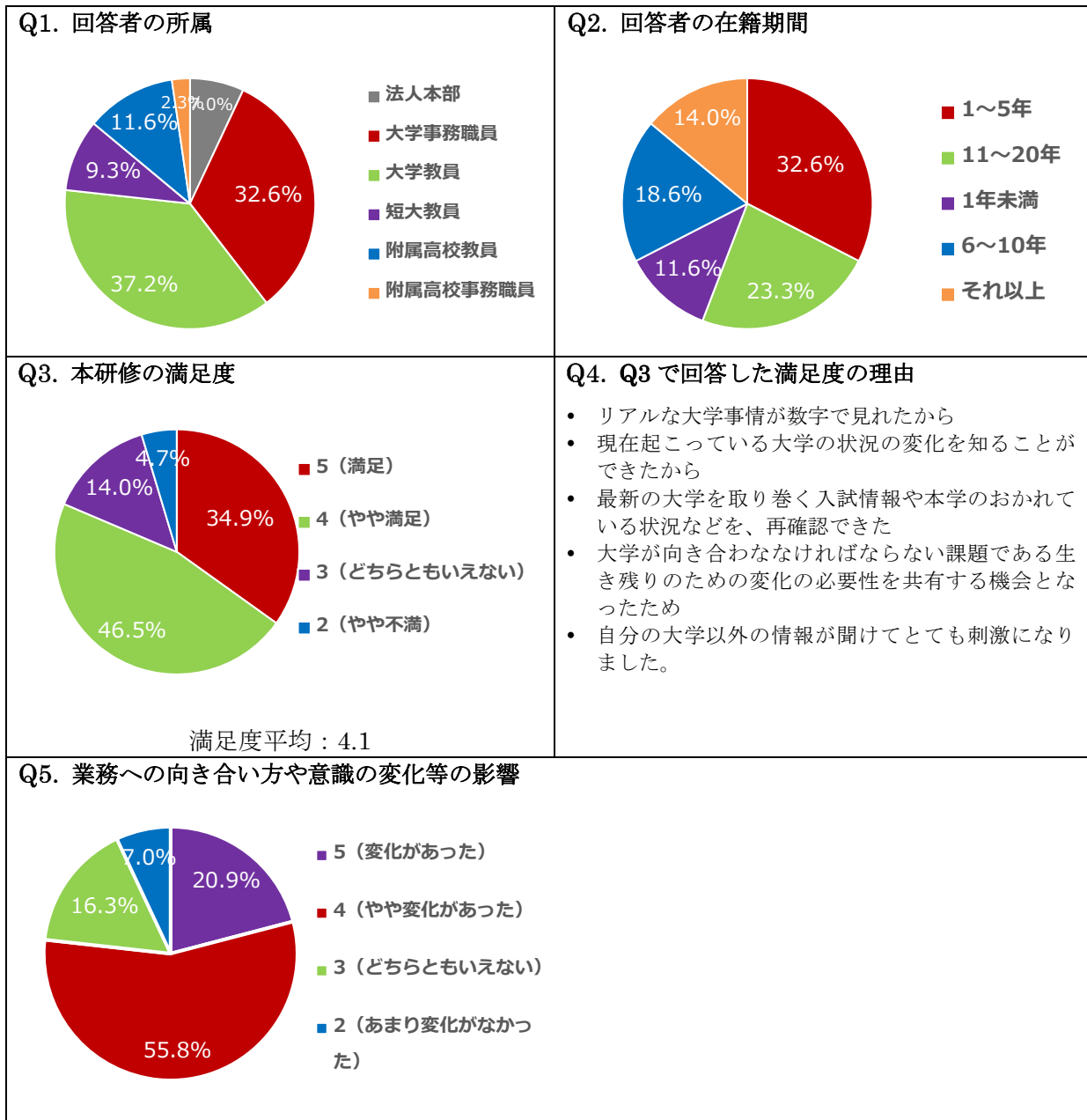
今年度は各研修会終了後にアンケートを実施、満足度などを明らかにした。以下に集計結果を報告する。なお、アンケートは全参加者を対象に実施しているため、「2.2024年度 事業報告」で報告した参加人数とは異なる。

本稿では、アンケート項目の内一部を掲載する。特に、自由記入については一部のみを掲載した。

#### 3.1. アンケート報告

##### ① 5月22日開催 風雲急を告げる私大受験の世界

回答対象者数 69名 回答者数 46名 回答率 66.6%

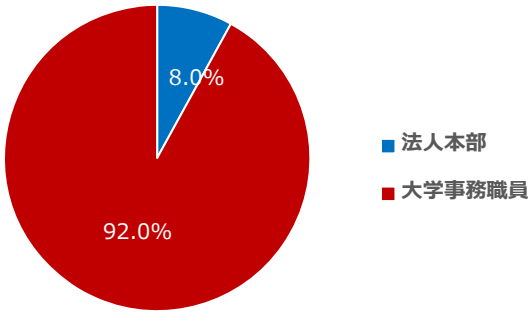
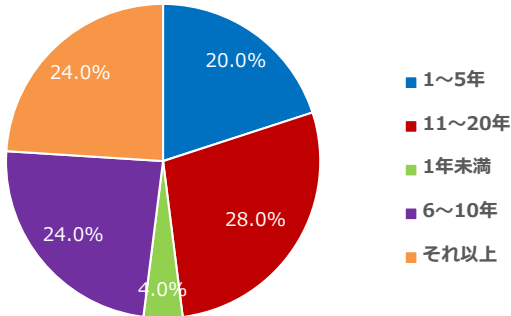
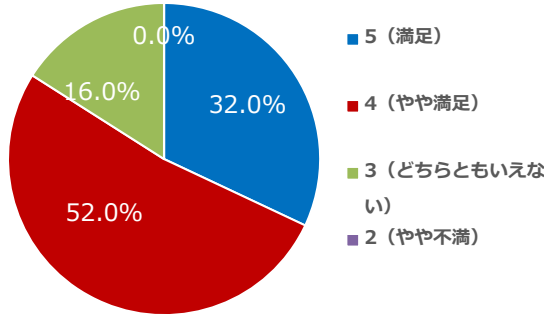
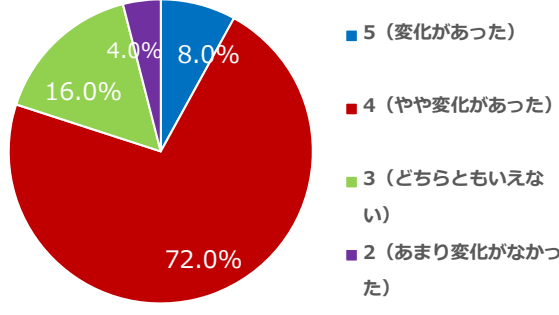


② 5月15日～7月12日開催 eラーニング OAスキル (Word、Excel、PowerPoint、Access)

回答対象者数 32名

回答者数 25名

回答率 78.1%

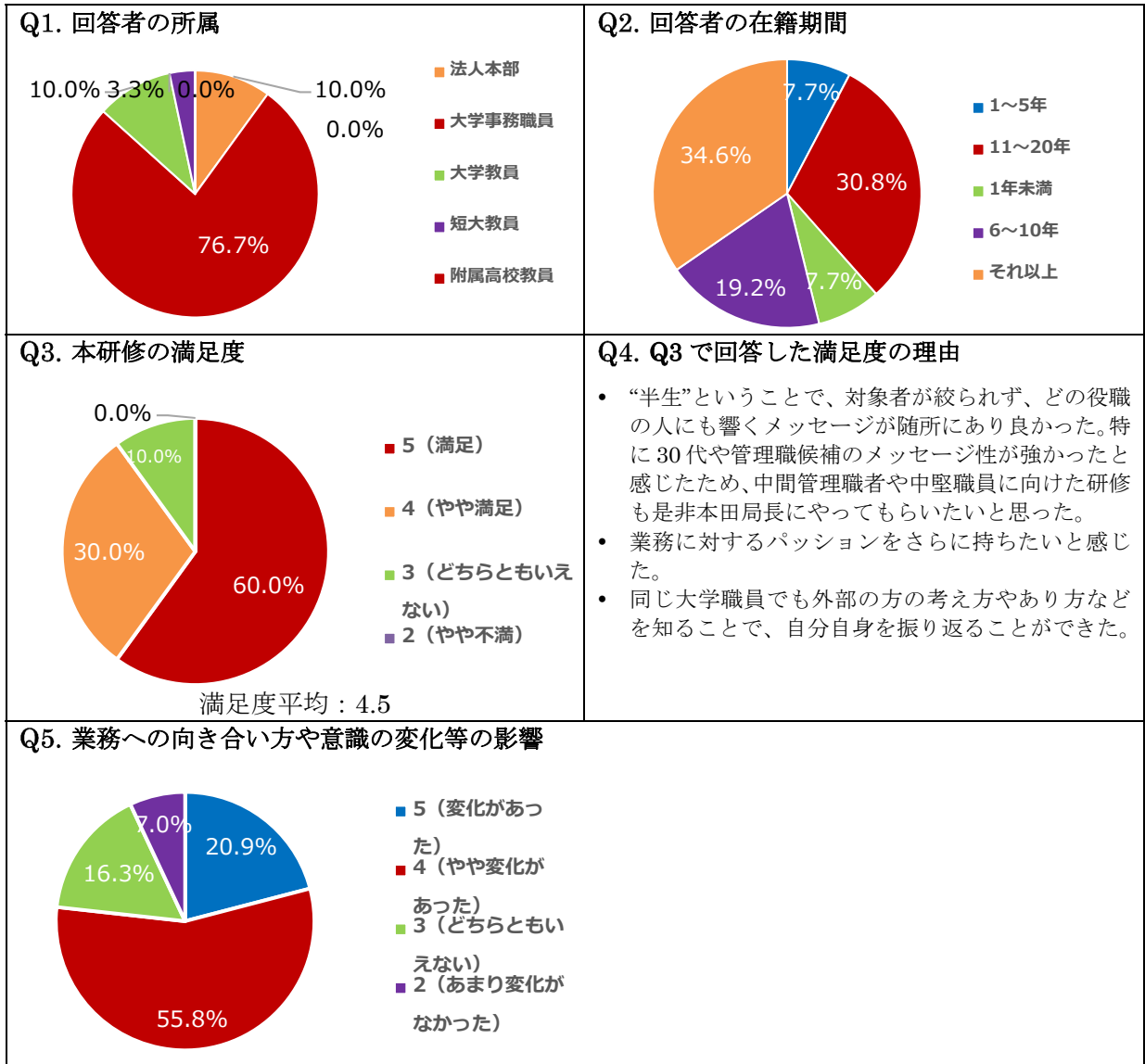
<p><b>Q1. 回答者の所属</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人本部</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>大学事務職員</td> <td>92.0%</td> </tr> </tbody> </table>	所属	割合	法人本部	8.0%	大学事務職員	92.0%	<p><b>Q2. 回答者の在籍期間</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>在籍期間</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～5年</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>11～20年</td> <td>28.0%</td> </tr> <tr> <td>1年未満</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>6～10年</td> <td>24.0%</td> </tr> <tr> <td>それ以上</td> <td>24.0%</td> </tr> </tbody> </table>	在籍期間	割合	1～5年	20.0%	11～20年	28.0%	1年未満	4.0%	6～10年	24.0%	それ以上	24.0%
所属	割合																		
法人本部	8.0%																		
大学事務職員	92.0%																		
在籍期間	割合																		
1～5年	20.0%																		
11～20年	28.0%																		
1年未満	4.0%																		
6～10年	24.0%																		
それ以上	24.0%																		
<p><b>Q3. 本研修の満足度</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 (満足)</td> <td>32.0%</td> </tr> <tr> <td>4 (やや満足)</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>3 (どちらともいえない)</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>2 (やや不満)</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>満足度平均：4.2</p>	満足度	割合	5 (満足)	32.0%	4 (やや満足)	52.0%	3 (どちらともいえない)	16.0%	2 (やや不満)	0.0%	<p><b>Q4. Q3 で回答した満足度の理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務上に必要な知識を習得することができたため</li> <li>• eラーニングなので自分の業務の都合を見ながら受けることができ、学びたい内容も自分の受けたいものを選択できるので良かったです</li> <li>• 自分の興味のある部分・知りたいスキルなどを業務の状況に応じて学習できるのが良い。</li> <li>• OAスキルが身についたから</li> <li>• OAスキル(Word、Excel、PowerPoint、Access)は普段の仕事のなかでも非常に必要な能力だと思います。ただ、個々によってスキルの差があるため、このようにここが必要とするパートで学べるのはとても良いと思います</li> </ul>								
満足度	割合																		
5 (満足)	32.0%																		
4 (やや満足)	52.0%																		
3 (どちらともいえない)	16.0%																		
2 (やや不満)	0.0%																		
<p><b>Q5. 業務への向き合い方や意識の変化等の影響</b></p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>影響</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 (変化があった)</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>4 (やや変化があった)</td> <td>72.0%</td> </tr> <tr> <td>3 (どちらともいえない)</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>2 (あまり変化がなかった)</td> <td>4.0%</td> </tr> </tbody> </table>		影響	割合	5 (変化があった)	8.0%	4 (やや変化があった)	72.0%	3 (どちらともいえない)	16.0%	2 (あまり変化がなかった)	4.0%								
影響	割合																		
5 (変化があった)	8.0%																		
4 (やや変化があった)	72.0%																		
3 (どちらともいえない)	16.0%																		
2 (あまり変化がなかった)	4.0%																		

③ 9月12日開催 本田勝浩という生き方～大学職員としての半生～

回答対象者数 32名

回答者数 30名

回答率 93.7%



④ 11月13日開催

障害平等への理解を深める～支援を要する相手への対応に対する困り感解消に向けて～

回答対象者数 49名

回答者数 31名

回答率 63.2%

<p><b>Q1. 回答者の所属</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人本部</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>大学事務職員</td> <td>71.0%</td> </tr> <tr> <td>大学教員</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>短大教員</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>附属高校教員</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>	所属	割合	法人本部	6.5%	大学事務職員	71.0%	大学教員	16.1%	短大教員	3.2%	附属高校教員	3.2%	その他	0.0%	<p><b>Q2. 回答者の在籍期間</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>在籍期間</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年未満</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>1～5年</td> <td>19.4%</td> </tr> <tr> <td>6～10年</td> <td>22.6%</td> </tr> <tr> <td>11～20年</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>それ以上</td> <td>25.8%</td> </tr> </tbody> </table>	在籍期間	割合	1年未満	6.5%	1～5年	19.4%	6～10年	22.6%	11～20年	25.8%	それ以上	25.8%
所属	割合																										
法人本部	6.5%																										
大学事務職員	71.0%																										
大学教員	16.1%																										
短大教員	3.2%																										
附属高校教員	3.2%																										
その他	0.0%																										
在籍期間	割合																										
1年未満	6.5%																										
1～5年	19.4%																										
6～10年	22.6%																										
11～20年	25.8%																										
それ以上	25.8%																										
<p><b>Q3. 本研修の満足度</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 (満足)</td> <td>29.0%</td> </tr> <tr> <td>4 (やや満足)</td> <td>41.9%</td> </tr> <tr> <td>3 (どちらともいえない)</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>2 (やや不満)</td> <td>3.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>満足度平均：4.0</p>	満足度	割合	5 (満足)	29.0%	4 (やや満足)	41.9%	3 (どちらともいえない)	25.8%	2 (やや不満)	3.2%	<p><b>Q4. Q3 で回答した満足度の理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害を持つ学生への具体的な対応方法を学ぶことができた点が良かったです。</li> <li>基礎的な知識やテーマを取り扱っていただくことで、参加した教職員（職歴問わず）が改めて、共通認識を持つきっかけづくりになったと感じました。「発達障害はじめ（障害）」「合理的配慮」は、学生募集（入試）から始まり、普段の学生生活、就活・就職に至るまで幅広く密接に関連するため、少し発展した内容（応用編）もぜひ開催していただきたいです。また、ハイブリッド形式の開催は、業務都合により選択できありがたいです。</li> </ul>																
満足度	割合																										
5 (満足)	29.0%																										
4 (やや満足)	41.9%																										
3 (どちらともいえない)	25.8%																										
2 (やや不満)	3.2%																										
<p><b>Q5. 業務への向き合い方や意識の変化等の影響</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>影響</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 (変化があった)</td> <td>22.6%</td> </tr> <tr> <td>4 (やや変化があった)</td> <td>58.1%</td> </tr> <tr> <td>3 (どちらともいえない)</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>2 (あまり変化がなかった)</td> <td>3.2%</td> </tr> </tbody> </table>		影響	割合	5 (変化があった)	22.6%	4 (やや変化があった)	58.1%	3 (どちらともいえない)	16.1%	2 (あまり変化がなかった)	3.2%																
影響	割合																										
5 (変化があった)	22.6%																										
4 (やや変化があった)	58.1%																										
3 (どちらともいえない)	16.1%																										
2 (あまり変化がなかった)	3.2%																										

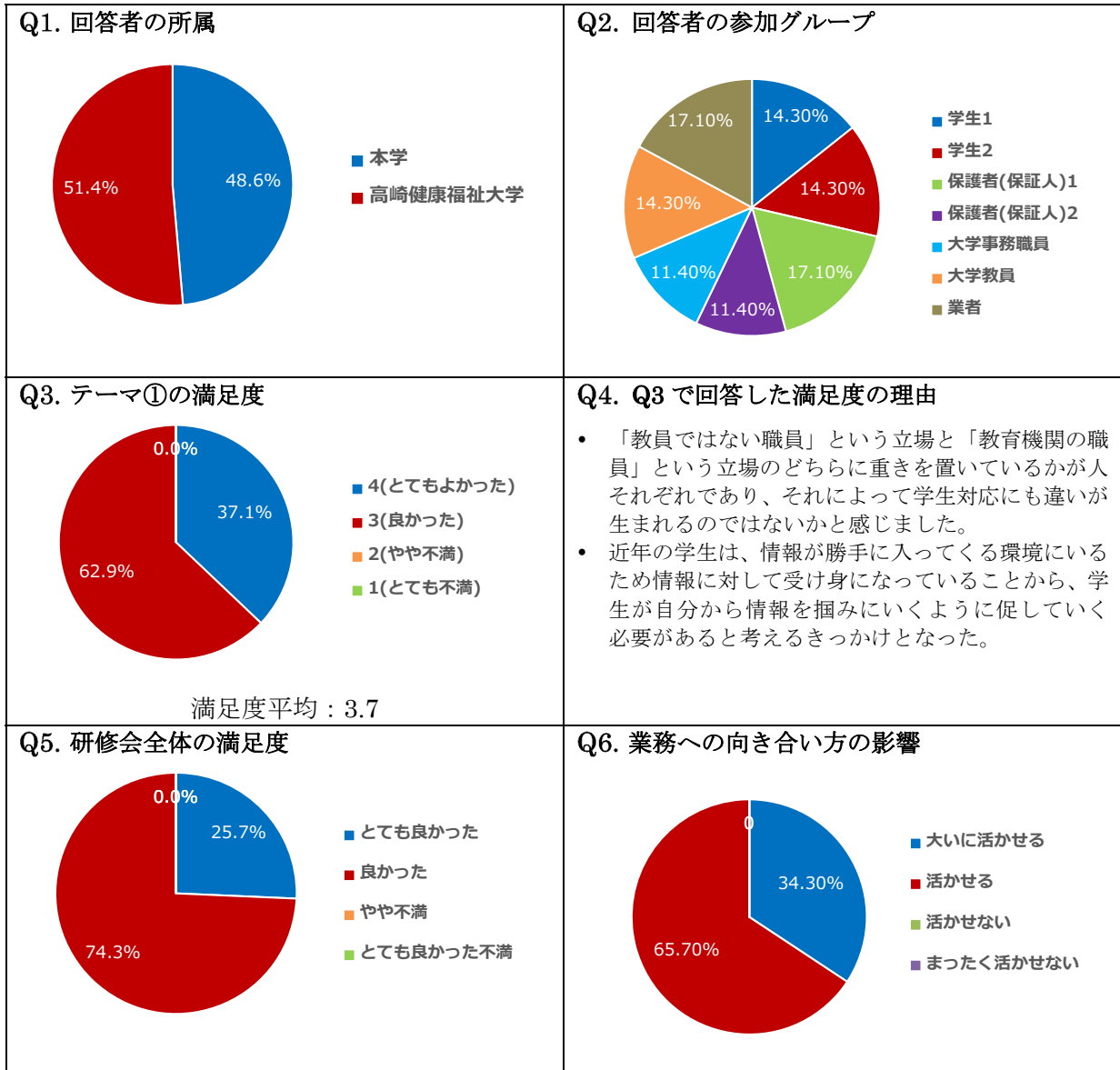


⑤ 学外合同研修会高崎健康福祉大学・高崎商科大学合同 SD 研修会

回答対象者数 38名

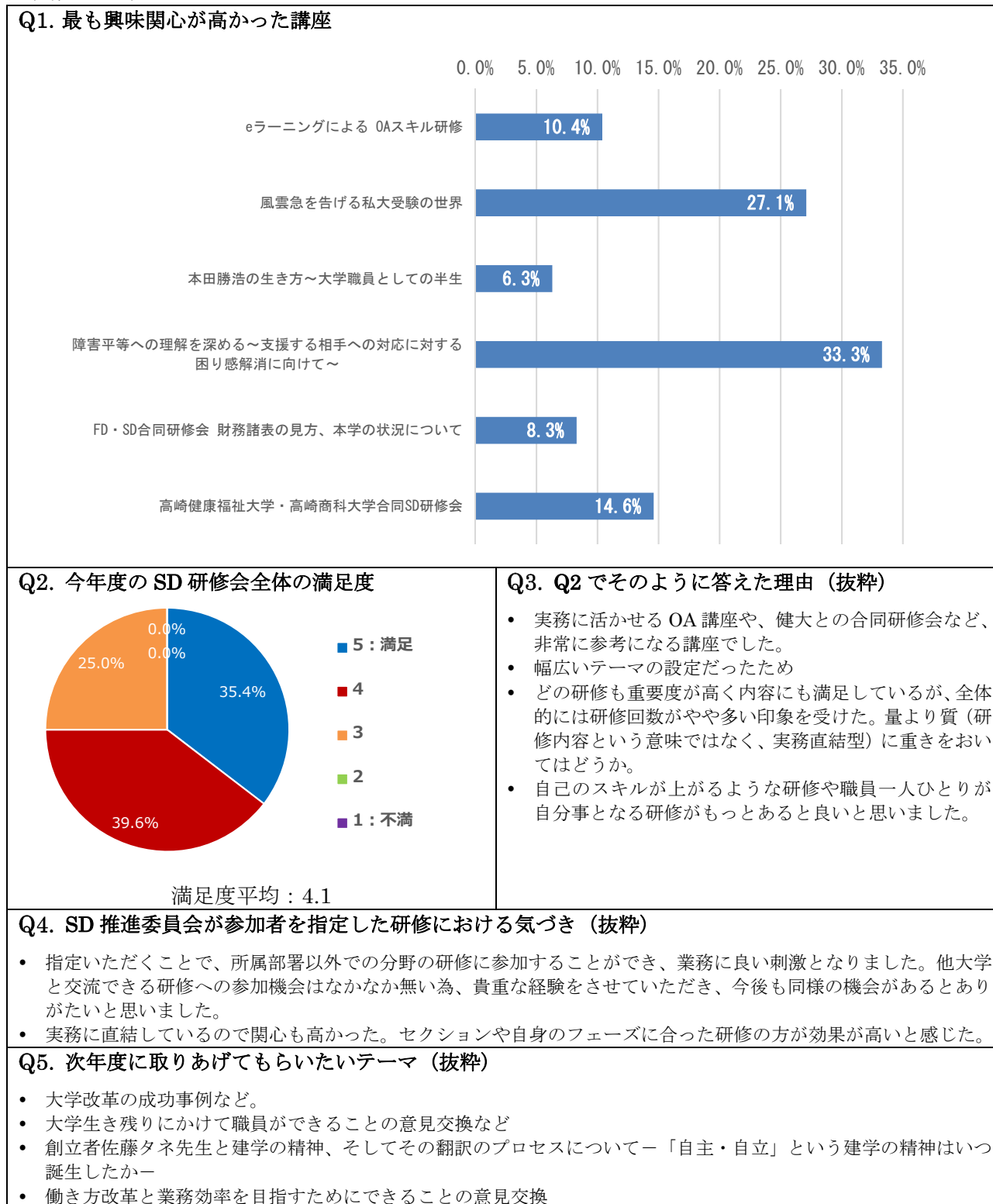
回答者数 35名

回答率 92.1%



### 3.2. 次年度 SD に向けたアンケート報告

回答数 48 名<sup>viii</sup>



### 3.3. 集計結果全体に対するコメント

2024 年度は従来の集合型研修、eラーニングによる研修、他大学との合同研修会に加え、SD 推進委員会が研修対象者を指定し、私学経営研究会主催セミナーへの参加を促し、年間で 8 本の研修会を行った。

集合型研修では、私立大学を取り巻く状況の理解の機会として「風雲急を告げる次第受験の世界」や「本田勝浩の生き方～大学職員としえの半生～」を開催した。私立大学の課題やそれに立ち向かう教職員の姿を理解することができる研修であり、それぞれ参加者の半数以上が「満足」「やや満足」と回答した。昨年度のアンケート結果をもとに、ニーズが高かった障害理解に関する研修を実施した。今年度は

入門編として位置づけ、障害平等の概要理解に努めた。本研修には附属高校教職員にも参加を促したところ、当日 10 名の附属高校教職員が参加し、高い満足度を得ることができた。

e-ラーニング型研修においては、昨年度同様、業務に直結するスキル向上を目指し「OA スキル研修」を継続した。アンケートにおいても「OA スキル(Word、Excel、PowerPoint、Access)は普段の仕事のなかでも非常に必要な能力だと思います。ただ、個々によってスキルの差があるため、このようにここが必要とするパートで学べるのはとても良いと思います」などとコメントが寄せられ、一定の研修成果につながったと考える。なお、次年度からは e-ラーニングの利用の見直しが検討されていることから、このような基礎スキル向上の研修については、異なる方法を検討する必要がある。

今年度は私学経営セミナーが主催する研修会に複数回参加した。中でも、「中堅職員の役割と能力開発」「高大接続と探究型授業の重要性」は役職や業務内容をもとに SD 推進委員会が受講者を指定した。受講者を指定したことで、業務に直結した知識のインプットになったと思われる。

SD 研修会における全体満足度は平均 4.1 と昨年度よりも向上した（昨年度全体満足度 3.9）。様々なテーマを扱うことで、広く業務に関連した知識のインプットの機会となったといえる。一方で、業務バランスとの課題が明らかとなった。例えば、業務都合により十分に研修会に参加できなかった意見も寄せられた。また、他大学との合同研修会でも見られるように、意見交換を通じて理解を深めることができる点から、研修会の実施方法についてもさらなる改善を目指したい。

## 4. まとめと次年度計画

### 4.1. まとめ

本学 SD 研修会は「高崎商科大学スタッフ・ディベロップメント規程」に基づき、以下の 3 点を踏まえて構成されている。

- (1) 個人の能力向上に資する事項
- (2) 学内組織の業務改善、組織間の連携強化、知識共有に資する事項
- (3) 教職協働を図る教育・研究およびその支援に資する事項

「(1) 個人の能力向上に資する事項」は主に、e-JINZAI を活用した e-ラーニング研修を通じて実施した。e-JINZAI は昨年度も活用し、受講した職員からも一定の評価があったため、今年度も活用することとなった。日々の業務に活用できることを踏まえ、OA スキル研修 (Word や PowerPoint、Excel) を受講対象にし、個人で学びたい内容を選択できるようにした。また、昨年度からマナーや健康に関する研修会を SD 推進委員会が企画・実施しているが、今年度も働く教職員の心や体の健康をテーマとしたラインケア研修の立案を行った。ただし、SD 推進委員会で検討した結果、学校法人高崎商科大学に研修会の要望書を提案することとなった。

「(2) 学内組織の業務改善、組織間の連携強化、知識共有に資する事項」については、高崎健康福祉大学との合同 SD 研修会、また文教大学学園常務理事・法人事務局長 本田勝浩氏による研修会を実施した。SD 推進委員会が実施するアンケート結果において、他大学との交流を希望する声は毎年あり、今年度も SD 研修会として実施した。各研修会実施後に行ったアンケート結果から、日頃の業務や悩みなどを共有することで、自身の業務を振り返る機会の創出につながったようである。

「(3) 教職協働を図る教育・研究およびその支援に資する事項」については、その人らしさを認め合う共生社会実現に向けて、教職員の障害平等への理解や社会に対する意識を高めるため、支援を要する相手への対応に関する内容の研修を行った。障害者就労支援事業 ウェルビー株式会社による様々な事例の紹介を含めた研修内容であったため、理解を深められた時間になったといえるだろう。

### 4.2. 次年度計画

#### ① 本学独自の SD 研修会の開催について

具体的な研修内容について、SD 研修会後のアンケート結果や SD 推進委員会の検討を踏まえ、以下のようなテーマの提案が行われた。具体的なテーマや研修会の内容などの詳細は、次年度の SD 推進委員会で検討する。

- 大学教育と経営における知識修得と理解  
例：高等教育政策や改革総合支援事業に関する知識を修得し、理解することで、若手職員の大学教育や経営に関する基礎作りとなり、中堅職員以上のアップデートや見直しの場になると考える。
- 教職員の活発なコミュニケーションの創出  
例：アサーティブコミュニケーションのようなお互いを尊重しながら意見を交わす方法を身に付けることで、円滑な職場環境づくりにつながると考える。

- 自校の理解を深める

例：法人 120 周年を迎えるにあたり、改めて創立者の想いや建学の精神を深く理解することで、教職員の団結を強固にするとともに教職員が同じ方向を向き、教育・研究活動を行うことができる。

このほか、次年度はこれまで導入していた e-ラーニングではなく、JMA 大学 SD フォーラム主催研修会に参加する。一人 1 回は研修会に参加し、一人ひとりに合わせたスキル向上を目指すほか、他大学の教職員とのネットワークづくりにもつなげてもらう狙いがある。

また、具体的なテーマ設定の他、改めて SD 推進委員会として本学教職員が身に付けるべき能力や資質を検討する必要性も提示された。身に付けるべき能力や資質をもとに多年度で研修会を検討することで、研修会への参加目的が明確になり、さらなるスキル向上の機会になると考える。このような運用については、次年度以降具体的な検討を進めたい。

## ② 他大学との合同研修会の開催計画について

2023 年度、2024 年度と 2 年連続で本学と高崎健康福祉大学による合同 SD 研修会を実施している。次年度も継続して合同研修会の開催を希望するが、研修形式や具体的なテーマや運営方法については次年度の業務となる。

以上

---

i このほか、大学特任教員・短大特任教員・理事長・法人職員・附属高校教職員が参加した。

ii このほか、法人職員が参加した。

iii このほか、当人教員、法人職員、附属高校教職員が参加した。

iv e-JINZAI のログイン ID は職員（附属高校職員を含む）と SD 推進委員会所属教員に付与した。参加状況・参加割合は職員の内レポート提出者を対象としている。

v 全学会議終了後に実施。

vi このほか、大学特任教員・短大特任教員・理事長・法人職員が参加した。

vii このほか、高崎商科大学 事務職員 2 名がオブザーバーとして参加した。

viii アンケート回答者 48 名の内訳は以下の通り。

法人本部 3 名、大学専任教員 12 名、短大専任教員 4 名、附属高校専任教員 8 名、大学事務職員 19 名、附属高校事務職員 2 名